

地域研究画像
デジタルライブラリ

DIPLAS



撮影者

1. 梅棹 忠夫
2. 飯田 卓
3. 石毛 直道

シンポジウム

研究ツールとしての 画像デジタルライブラリ

Zoomを用いた
オンライン
開催

2021.12.4 土

14:00~16:00

(13:30 Zoom 開場)

定員 150名 / 要事前申込・先着順

申込先 diplas@minpaku.ac.jp

※申し込みメールの本文には、お名前とご所属先を明記してください。

主催：科学研究費助成事業 新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』『地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化』（支援機能：地域研究画像デジタルライブラリ（略称 DiPLAS）、課題番号：16H06281、中核機関：国立民族学博物館
共催：国立民族学博物館



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

日本の研究者が世界各地で調査するさいに撮影した写真や動画などの画像資料は、調査当時の実態を記録した研究資源であると同時に、日本の学術史を反映する学術遺産でもあります。国立民族学博物館が中心となって進める「地域研究画像デジタルライブラリ」（略称 DiPLAS、正式名称は下記主催者名を参照）では、広い意味で地域研究に関わって進められている科学研究費助成事業（科研費）プロジェクトを対象に、過去に蓄積された画像資料のデジタル化・共有化を技術的に支援してきました。このシンポジウムでは、5年あまりにわたる活動をあらためてふり振り返り、写真資料を学術的に活用する方法をあらためて考えてみたいと思います。

研究支援代表者 吉田 憲司

（国立民族学博物館・館長）

◆ DiPLAS プロジェクトとはなにか？ ◆

この事業の目的は、現在進行中の科学研究費補助金（科研費）プロジェクトを対象とし、過去に蓄積された写真資料のデジタル化・データベース化を技術的に支援することで研究の進展を促すことにあります。この事業を通じて、国内外での学術調査に関わる写真資料を集積した「地域研究画像デジタルライブラリ（略称 DiPLAS）」を構築し、地域研究のさらなる発展に資するプラットフォームとして整備します。

- 13:30 Zoom 開場
- 14:00-14:10 趣旨説明 飯田卓（国立民族学博物館）
- 14:10-14:30 発表1 「フィールド調査と写真資料」 縄田浩志（秋田大学）
- 14:30-14:50 発表2 「文化財科学と写真資料」 末森薫（国立民族学博物館）
- 14:50-15:05 コメント 吉田憲司（DiPLAS 代表／国立民族学博物館館長）
- 15:05-16:00 討論 司会：寺村裕史（国立民族学博物館）

今回のシンポジウムについては、「地域研究画像デジタルライブラリ」ホームページに、さらに詳しい内容を記載しています。以下のホームページもご確認ください。

<http://diplas.jp/event.html>



お問い合わせ先

国立民族学博物館 研究協力係

TEL:06-6878-8209

FAX:06-6878-8479

MAIL:diplas@minpaku.ac.jp